日華教育学術研討会が香川の地で開催!!
日華両国の教諭が実践発表＆熱い議論!

高松国際ホテル「栗林の間」にて意見交換!

去る七月四日、一三時より、高松国際ホテル「栗林の間」において、中華民国の教師を招いて日華教育学術研討会が開催された。本研討会は、全日本教職員連盟と台北駐日経済文化代表處が共催で行う交流会である。本年は、中華民國全國教育會の小学校・中学校の教諭・学校長等八名の教員が来県した。全日教連・香教連からは一四名の会員が参加した。久保井全日教連委員長、林台北駐日經濟文化代表處文化部次長、森香教連委員長、陳中華民國全國教育會常務理事らの挨拶の後、坂出市立東部中学校教諭・中澤克彦氏が**「教科指導を通した生徒の学力の定着と学習意欲の向上にむけて」**と題した実践発表を行った。実生活に生きる数学を教材化し、子供に感得させる授業を通して、学力の定着と学習意欲の向上を目指す発表であった。

実践発表を行う廖氏

実践発表を行う中澤氏

一方、中華民國全國教育會からは舊館國小輔導主任の廖芳娟氏が、**「電子教科書授業に導入することで、児童生徒の学習意欲を高める実践」**について報告した。両方の発表ともに、生徒の学習意欲の向上が、学習内容の定着に必要であるという内容であったために、発表後の意見交流も活発化した。中華民國全國教育會からは、少人数指導の実践方法について質問が相次いだ。四〇人の生徒による授業に関しては、人数が多すぎるのではないかとの意見が聞かれた。さらに、週二〇時間以上の授業を担当している香川の教員の実態に、驚きの声が聞かれた。また、香教連会員からは、発表にあった電子教科書の内容や、放課後塾に通う子供たちの実態について質問した。家庭における経済格差が生む教育較差についての議論も行われた。また、中華民国の教科書もプレゼントされ、日本での指導方法と似た内容が掲載されている部分に、参加者一同興味深く見入っていた。通訳を交えた意見交流ではあったが、他国の教育事情を知り、非常に有意義な研討会となった。

日華教育学術研討会参加者

中華民國全國教育會一行は、翌五日に、坂出市立東部中学校を学校視察し、少人数授業の実践を参観した。また、教頭先生による学校説明を受け、日華の教育制度の似ている点や相違点について質問が多く聞かれた。

東部中学校玄関前で記念撮影

全日教連・香教連教師団

中華民國全國教育會教師團

第27回　全日教連 教育研究全国大会（栃木大会）のご案内！

分科会提案発表者者一覧

分科会名およびテーマ・会場		提案テーマおよび提案者		助言者
第１分科会	学校マネジメント 学校力を高める組織運営の在り方	栃教協　初山　昭子　壬生町立壬生小学校　事務長 栃管協　小野　栄一　日光市立落合中学校　校長 **香教連　富永　淳一　高松市立栗林小学校　主幹教諭**		千葉大学教授 天笠　茂
第２分科会	教育課程 新学習指導要領に基づいた教育課程の編成	青森教協　角田　元伸　黒石市立追子野木小学校　教諭 山口県教連　兼氏　稔　周南市立大津島中学校　教諭		鳴門教育大学　大学院教授 村川　雅弘
第３分科会	生徒指導 社会性を育む生徒指導体制の在り方	和高連　金城　正明　和歌山県立和歌山工業高校　教諭 宮教県連　新名　博　西都市立妻南小学校　教諭		香川大学教授 七條　正典
第４分科会	教科指導 確かな学力を育成する教科指導の在り方	千教連　齋藤　匠　八千代市立八千代台西小学校　教諭 愛教研　高須　昌寿　今治市立日吉中学校　教諭 徳教団　佐藤　道代　鳴門市立鳴門西小学校　教諭 佐教連　荒川　尚　鹿島市立浜小学校　教諭 大分公高教　江藤　貴文　大分県立森高校　教諭		京都ノートルダム女子大学教授 加藤　明 宇都宮大学教授 松本　敏
第５分科会	特別支援教育 一人一人の発達段階と教育的ニーズに応じた特別支援教育	栃教協　周東　良美　足利市立青葉小学校　教諭 栃教協　村上　典子　茂木町立茂木小学校　教諭 **香教連　佐藤　和代　坂出市立東部小学校　教諭**		独立行政法人特別支援教育総合研究所 教育支援部総括研究員 廣瀬由美子
第６分科会	健康教育 健康について自ら考え実践する児童生徒の育成	山口県教連　平原みゆき　柳井市立織田小学校　教諭 岐学組　鈴木　歌子　大垣市立南中学校　養護教諭		女子栄養大学教授 三木とみ子
第７分科会	心の教育・道徳教育 豊かな人間性を育む心の教育	栃教協　赤羽　恵子　大田原市立須賀川小学校　教諭 栃教協　星　勝枝　那須烏山市立江川小学校　教諭 島教協　藤江　淑子　大田市立北三瓶小学校　教諭		明星大学教授 高橋　史朗

◎日程

第１日　８月７日（土）《分科会》

8:30	9:00	9:20	12:00	13:00	15:00	15:30	17:00	17:30	19:30
受付	開会 行事他	分科会	昼食	分科会	移動	助言者 シンポジウム	受付	レセプション※	

第２日　８月８日（日）《全体会》

8:30	9:00	10:10	10:30	11:50	12:00
受付	全体会	休憩 準備	記念講演	閉会行事	

記念講演講師
齋藤 孝 氏(明治大学文学部教授)
演題
『日本語力と身体感覚をきたえる』

香教連は、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

第二七回全日教連教育研究全国大会栃木大会が左の日程で開催される。今年のテーマは『「生きる力」を育てる質の高い教育の創造』(同一テーマ三年目最終年度)である。香教連からは次の二名が提案発表予定であるが、明治大学文学部教授　齋藤孝氏を講師にお迎えし、「日本語力と身体感覚をきたえる」と題した記念講演を予定している。校務多忙な中ではあるが、香教連会員の多数の参加を期待する。

第5分科会　特別に支援が必要な児童への自尊感情を高める支援の在り方
坂出市立東部小学校　佐藤　和代　教諭

第1分科会　主幹教諭における学校マネジメントの実践
高松市立栗林小学校　富永　淳一　教諭

メトロノーム

先日中華民國全國教育會教師團を香川にお迎えして、日華教育学術研討会が開催された。日華両国から延べ三〇名の教師を迎え、白熱した研討会が行われた。討論の中で、中華民國全國教育會會員から香川県における少人数指導の実情についての質問があった。少人数指導が効果的であること、習熟度別編成も有効な手段の一つであることは両国で一致した見解であった。ただ、日本の先生方が通常四〇人を一人で担任していることを伝えると驚きの声が上がった。また、中華民国ではコンピュータや電子教科書は、子供の道具としての性格よりも、教師の指導ツールとしての活用に重点が置かれているようである。実際、提案者の廖芳娟氏はペンタブレットを駆使して授業シミュレーションを行った。コンピュータもタブレットも教師一人に一台貸与されているそうである。さらにそのコンテンツも教科書会社が全教科に於いて完全に提供されており、ほとんど全ての教師による、電子黒板やプロジェクタ、コンピュータを使った授業が日常的に実践されているようである。十分な予算と教員研修に裏付けられた教育に力強さを感じた。翌日の学校訪問では、少人数授業や、T・T授業風景を参観いただいた。複数の教員で取り組む授業に対する賞賛とともに、教員の担当授業時数の多さに驚きの声が聞かれた。さらに土日における部活動指導に対しても質問があった。「日本の教師はいつ休んでいるのか?」という質問には苦笑した▼国は違っても子供の健やかな成長を願う高い志は同じであると確認できる意義深い研討会であった。(も)

香教連訴訟費用保険開始!

年度末より募集しておりました「香教連訴訟費用保険」が平成２２年７月１日より運用開始となっております。

１００名を超える会員の皆様からの応募があり、順調に始まりましたことお礼申し上げます。同保険は本来適用されないのが望ましいのですが、香教連は会員の皆様の「教員の身分」「生活」を守ります。

項　目	摘　　要
保険料	490円/月(給与より天引きします)
補償内容	訴訟費用最大500万円
	損害賠償請求最大3,000万円

香川県教職員連盟機関誌
発行所：香川県教職員連盟
発行者：森　真佐純
〒760-0004
高松市西宝町２丁目４番６０号
香川県教育会館６０２号
TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723
http://www.kakyoren.com/
E-mail:info@kakyoren.com
毎月10日発行　定価１部50円
(年間1,000円　送料とも)
会員の購読費は会費の中に含む